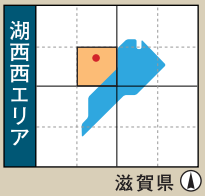
史跡
県指定

朽木陣屋跡（くつきじんやあと）

朽木村野尻　昭和58年3月28日指定



朽木村は、安曇川が削り込んだ険しい谷に沿った山村で、今は、豊かな自然を求め訪れる人達で賑わっていますが、かつては日本海と京都を結ぶ重要なルート上にあって、多くの物資と情報が行き交い賑わっていました。朽木氏はこの要路の掌握と、山林経営により、中央政権にとって無視できないほどの力を蓄えていました。

当時のできごと	
1397年	金閣寺創建
1432年	足利義教、明との勘合貿易を再開
1497年	蓮如石山本願寺創建

朽木氏について

朽木氏は、佐々木氏の流れで、京極氏、六角氏とは同族の高島郡に割拠した高島七頭（学習シートNo.038）の一家として朽木谷を支配しました。

朽木氏は、京都と日本海を結ぶ若狭街道一帯を抑え、かつ、豊かな山林資源を活用することにより、力を蓄えてゆきます。室町幕府の中でも、京都に近い立地、軍事力などの理由から重用され、幕府の奉公衆として、親衛隊的な役割も担っていました。また、代々の足利将軍が戦乱から逃れるため、度々朽木氏の元に身を寄せています。織田信長が、朝倉攻めの際、浅井長政の裏切りに遭い、若狭から京へ逃げ帰る際にとったルートが朽木谷で、朽木氏がその先導をしたことは有名です。その後、豊臣秀吉、徳川家康に仕え、江戸時代には9000石を安堵されます。

現在、朽木家に伝わった記録類「朽木家文書」は、中世史の基本資料として、重要文化財に指定されています。

朽木陣屋について

朽木陣屋は、江戸時代に朽木氏が本拠とした城館で、若狭街道と琵琶湖からの街道が合流する、交通の要衝に立地しています。近年行われた発掘調査の結果、室町時代の朽木城も、この位置に重複していることがわかってきています。

陣屋の規模は、おおよそ方二町で、内部には御殿や馬場がありましたが、明治維新に建物は全て壊され、現在では堀、土塁、石垣の一部が見えるだけとなっています。しかし、地下遺構は良好に残っており、今後の調査により往時の姿を蘇らせることができそうです。



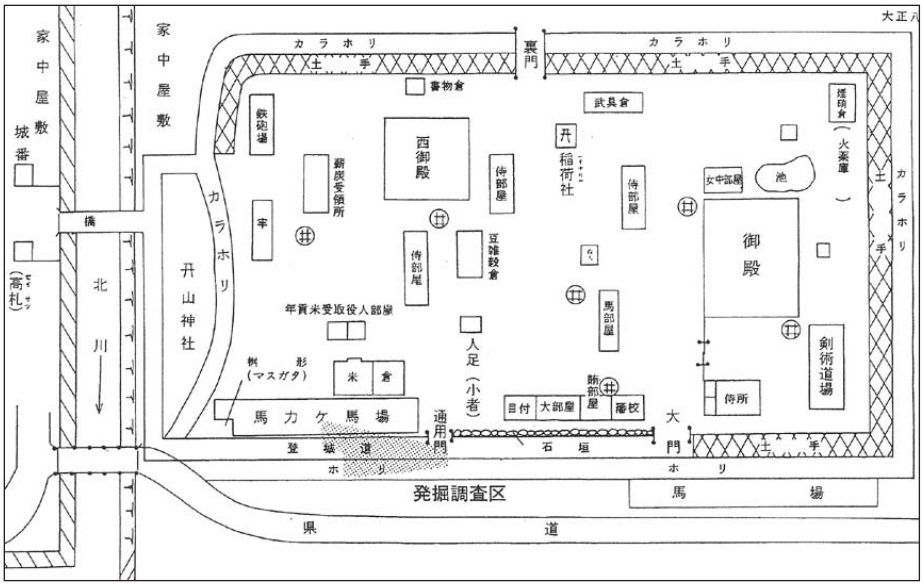
朽木陣屋跡現況



発掘された建物跡



発掘された堀跡



朽木陣屋跡見取図



朽木家墓所

朽木氏関連遺跡

朽木氏は、鎌倉時代から600年もの長い間、朽木谷を支配してきました。このため、朽木谷の各所に朽木氏に関連する遺構が数多く残されています。

池の沢庭園

朽木村村井にあり、安曇川の段丘上に造られた庭園の遺構です。一部、発掘調査を行ったところ、平安時代から鎌倉時代初期の遺物が出土したこと、残された景石の様式が古いことなどから、全国的にも事例の少ない、鎌倉時代初期の庭園として注目されます。

岩神館跡

室町幕府11～13代将軍が、京の戦乱を避けて滞在した館跡とされています。後に寺院の境内となったため、館の中心部は失われていますが、背後の山麓には大規模な堀と土塁が残ります。また、今に残る庭園は、足利将軍を慰めるため造られたものと伝えられています（学習シートNo.090）。

西山城跡

朽木城（陣屋）の背後の山上に築かれた中世城郭で、朽木城の詰の役割を持っていたと考えられます。ここからは若狭街道、琵琶湖への街道を俯瞰することができ、朽木氏の経済基盤をよく表しています。土塁、堀に囲まれた方形郭で、一部に枡形虎口も見られます。



西山城跡

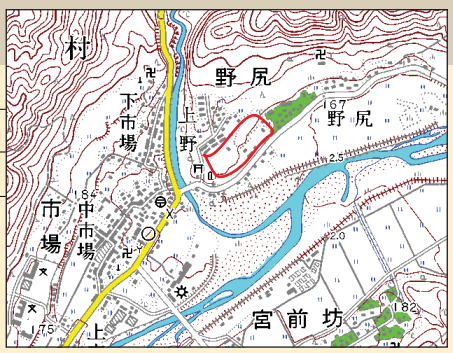
関連する文化財

清水山城館跡（新旭町）	学習シートNo.038
旧秀隣寺庭園（朽木村）	学習シートNo.090
朽木家墓所（朽木村）	旧興聖寺境内に残る朽木家の墓所。寛政元年の火災により廃される。石垣や石塁で区画された墓所に五輪塔を中心とした石塔が建ち並ぶ

もっと深く知りたい

朽木村教育委員会	☎0740-38-2324	高島郡朽木村大字市場792
朽木村郷土資料館	☎0740-38-2339	高島郡朽木村野尻478-22
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678

朽木陣屋跡へのアクセス　ＪＲ湖西線　安曇川駅もしくは堅田駅下車



【参考文献】〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会　〔朽木陣屋跡発掘調査報告書〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月